

国内景気のBSI値 7～9月期
国内景気は好況続くもやや鈍化
自社業況は企業マインドの慎重化がうかがえる

本所は、8月下旬から9月上旬にかけ経営経済動向調査（7～9月期）を実施し、その調査結果をまとめた。この調査は、短期的な景気動向を把握するため四半期ごとに行っているもの。京都府内に本社、本店を持つ企業を調査対象とし、523社から回答を得た（回答率74.1%）。

今回は、2006年7～9月期の実績と10～12月期、2007年1～3月期の景気、業績見通しについて質問した。

国内景気動向

2006年7～9月期は、「上昇」とする企業30.6%、「下降」とする企業8.4%、BSI値11.1（前期実績17.7）と停滞傾向にある。

今後も10～12月期はBSI値16.2、2007年1～3月期は3.9とやや停滞する見通しである。

企業経営動向

自社業況（総合判断）

2006年7～9月期は前期と比べて、BSI値2.7（前期実績4.9）と下降したものの、今後の10～12月期は、10.5と上昇する見込みとなっており、続く2007年1～3月期は季節的要因もあり3.2と下降に転じ慎重な見通しとなっている。

自社業況（総合判断）は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

1. 生産・売上高、工事施工高

2006年7～9月期は前期と比べて、「増加」22.2%、「減少」28.4%、BSI値3.1（前期実績4.7）と減少傾向で推移した。

今後の10～12月期は需要期入りもあって12.9と増加に転じる見込みであるが、2007年1～3月期は季節的要因もあり4.6と減少傾向の見通しとなっている。

2. 製・商品・サービス・請負価格

2006年7～9月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設請負価格を総合的に見ると、「上昇」10.0%、「下降」12.5%、BSI値1.3（前期実績0.6）と弱含みで推移した。続く10～12月期は3.6と強含みであるが、2007年1～3月期は2.0と弱含みの見通しとなっている。

3. 経常利益

2006年7～9月期は、BSI値6.9（前期実績0.1）と減益傾向で推移した。今後の10～12月期は季節的要因もあり7.6と増益見通しだが、2007年1～3月期は6.7と減益傾向の見通しとなっている。

4. 所定外労働時間

2006年7～9月期はBSI値 1.3(前期実績1.2)と減少傾向が続いた。今後の10～12月期は8.9と増加し、2007年1～3月期は 3.2と減少する見通しである。

5. 製・商品在庫

2006年7～9月期は「適正」とする企業が80.6%、「過剰」とする企業が15.7%、「不足」とする企業が3.7%、BSI値6.0(前期実績8.6)と概ね適正水準で推移したが、一部に過剰感がみられた。今後の10～12月期は「適正」が83.1%、2007年1～3月期は「適正」が85.3%と概ね適正水準で推移する見通しである。

6. 資金繰り

2006年7～9月期はBSI値 3.3(前期実績1.0)とやや逼迫した資金繰りに推移した。今後の10～12月期は0.5、2007年1～3月期は 0.7と概ね平穩に推移する見通しである。

当面の経営上の問題点

依然として「受注・売上げ不振」(43.4%)が第1位を占め、第2位に「原材(燃料)高」(34.8%)、続いて第3位に「過当競争」(31.9%)が挙げられ、「製・商品(請負)価格安」(26.0%)が第4位となった。

(注)BSI値とは、景気全般の見通しについて強気、弱気の度合を示すもので、プラスは「強気」「楽観」、マイナス()は「弱気」「悲観」を意味する。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。